

# 前立腺癌を予測する新たなバイオマーカーの検討と展望 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2020年8月5日～ 2021年3月31日

## 〔研究課題〕

前立腺癌を予測する新たなバイオマーカーの検討と展望

## 〔研究目的〕

今回の目的は、PSA4～10ng/mlでの前立腺癌の診断において、不必要な生検を回避するための新たなバイオマーカーを見出し、他の因子と比較検討することです。

## 〔研究意義〕

PSA(前立腺特異抗原)は前立腺癌の診断において、とても重要な腫瘍マーカーです。PSA4.1ng/ml以上の場合、前立腺癌診断のため前立腺生検が推奨されますが、4.1～10ng/ml(グレイゾーン)での癌陽性率は25%と高くはありません。しかしながら、前立腺生検は痛み、血尿、発熱、出血などを併発する可能性のある侵襲的な検査です。前述のごとく、PSAは有用な検査ですが、前立腺生検は患者様への負担も大きいと思われます。PSA検査の他に前立腺癌に対して高い正診率を維持し、不必要な生検を回避でき、簡便に判断できる新たな検査、すなわちバイオマーカーが期待されます。

好中球/リンパ球比(NLR)は、多くの癌の予後因子であると言われていています。また前立腺癌の診断における新しいバイオマーカーの可能性も報告されています。この検査は、採取した血液で簡単に検査が可能です。

今回、NLRを用い、グレイゾーンにおいて前立腺癌を予測することが可能であるかにつき、他の因子と比較検討を行い、更に病理組織学的所見に関しても検討を行う予定です。

## 〔対象・研究方法〕

2009年1月1日から2020年3月31日の間に帝京大学ちば総合医療センターの泌尿器科において、前立腺生検を施行した患者さんのうち、PSA4～10ng/mlの範囲の患者さんを対象とします。

研究のデザインは、後向き観察研究となります。

研究・調査項目：年齢、PSA(前立腺特異抗原)、超音波下前立腺体積、血液生化学検査、末梢血分画、病理組織学的所見、グリソンスコアについて、当院の電子カルテから情報を抽出します。

## 〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科

## 〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、患者さん個人を特定できる個人情報  
は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さん  
を特定できる個人情報は利用しません。

患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、  
研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

#### 問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 増田 広 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・講師

研究分担者: 納谷 幸男 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・教授

小島 聡子 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・准教授

住所: 〒299-0111 千葉県 市原市 姉崎 3426-3

TEL: 0436-62-1211 (代表) [内線 5359 ]